

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業振興センター

「稲作情報（第9号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第9号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1. 気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R6 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R6 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R6 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R6 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R6 (hr)	平年比 (%)
6月	1	21.6	19.9	-1.7	27.6	26.4	-1.2	16.7	14.4	-2.3	21.8	0.0	0	25.9	48.6	187.6
	2	22.3	22.5	0.2	27.8	27.3	-0.5	17.8	19.2	1.4	28.6	22.5	78.7	23.0	18.4	80.0
	3	22.8	25.7	2.9	27.9	32.0	4.1	18.7	21.2	2.5	40.9	0.0	0	21.2	25.7	121.2
	4	23.3	23.7	0.4	27.9	29.0	1.1	19.7	19.7	0.0	58.6	121.0	206.5	18.8	23.7	126.1
	5	23.9	24.8	0.9	28.1	27.5	-0.6	20.6	22.5	1.9	74.3	30.0	40	15.4	7.8	50.6
	6	24.6	24.4	-0.2	28.4	26.3	-2.1	21.6	22.5	0.9	84.4	102.5	121.4	14.1	0.0	0

○6月6半旬の平均気温は、平年並みであった。また、まとまった降雨があり降水量は前年比124%だった。日照時間は0hであり、曇天傾向となった。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：7月4日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主稈 出葉数L	葉色 SPAD	概 要
さがびより 6/21移植 武雄市橋町 ※3	本年値	33.9	80	5.4	39.3	<ul style="list-style-type: none"> 草丈は平年より高く茎数は平年より少ない。 ※分げつ開始期のため、未分げつの株有 主稈出葉数は平年より0.4葉少ない。
	前年値 ※1	25.7	105	5.7	36.1	
	平年値 ※2	27.3	102	5.8	—	
	平年比	124	79	-0.4	—	

※1 前年値データはR5 6/22 播種 7月5日時点データ。

※2 さがびよりの平年値はH21~R5の平均値

※3 本年移植日6月21日 平年移植日6月22日

(耕種概要)

品 種	年次	苗質		備考
		苗丈	葉齢	
さがびより	本年値	10.1	3.2	前作 小麦
	平年値	13.7	3.3	

3. 管内の生育状況（7月4日時点）

1) セタコシヒカリ：現在、穂ぞろい期頃となっている。

本年は早いところで6月25日出穂し、出穂盛期は6月26日~28日となった。

なお、情報田の出穂期は6月28日となり、平年並みとなった。
積算気温から予測される収穫適期は7月28日～8月1日頃である。

- 2) 普通期水稻 : 現在、分けつ期である。
移植後から断続的な降雨による深水と寡照傾向で推移しているため、草丈が伸長し、軟弱徒長ぎみの生育である。
- 3) その他特記事項
・まとまった降雨により、常時深水状態の圃場においては、スクミリンゴガイによる食害等の被害がみられる圃場もある。

4. 今後の管理

1) 七夕コシヒカリ

(1) 水管理

- ・「コシヒカリ」は、穂ぞろい期を迎えている。なお、積算温度による刈取り積算目安表は別紙参照。
- ・水管理は、根への酸素供給を図るためにも常時湛水するのではなく間断灌水（潤土管理）を行う。
ただし、玄米の品質低下を避けるため、土壌表面が白乾しないように、好天が続く場合は必ず走り水を行う。また、早期の落水は粒の充実不足、品質低下につながるため、収穫7日前ごろまでは間断灌水を続ける。

2) 普通期水稻

(1) 水管理

- ・移植後の断続的な降雨による深水、寡照により、草丈が伸長し、軟弱徒長ぎみの生育である。
- ・除草剤処理から7日経過したら、半日～1日程度の落水を行い、浅水管理に移行する。
- ・麦わらすき込み及び麦収穫前に打ち込みを行った圃場でガスの発生が著しい場合は、「ガス抜き」のために半日～1日程度の落水を行う。特に、足を踏み入れずに自然に気泡が出るようであれば直ちに落水する。（表1参照）
- ・移植後、降水量が多く、場合によっては除草剤の効果が十分発揮できていない圃場は、中後期除草剤の対応も視野にいれる（剤によっては収穫前日数に留意して使用する）

《表1 ガス（湧き）発生程度及び対策》

湧きの程度	様相とガス程度水稻への影響	水稻への影響	ガス対策（7月上旬以降）
稀	足を踏み込んでも気泡なし	なし	必要なし
少	足を踏み込むとわずかに気泡が見られる	なし	必要なし
中	足を踏み込むと気泡の発生が多い	根の活力低下	落水後に用水更新
多	足を踏み込むと盛んに気泡を発生	根張り不良	落水後に用水更新を繰り返し
甚	晴天時自然に気泡発生する（ぱちぱちと音が聞こえる。）水田歩くと著しく気泡発生。	根伸長障害、黄化	中耕と用水更新を繰り返し 回復後には、間断灌水（本格的夜干）



手を田んぼに入れると、気泡（ガス）が激しく発生する

⇒ガスの障害により生育抑制や古い葉の葉先に褐色の斑点が発生する。

(2) 病害虫防除

- 7月の病害虫予察情報（6月27日付け佐賀県農業技術防除センター発表）によると主要病害虫の発生量は以下のとおり。

《表2 7月の病害虫予察情報》

作物名	病害虫名	平年比
水稲 (早期)	穂いもち	並
	紋枯病	やや多
	斑点米カメムシ類	やや多
水稲 (普通期)	葉いもち	並
	トビイロウンカ	並
	セジロウンカ	並
	コブノメイガ	並

①いもち病

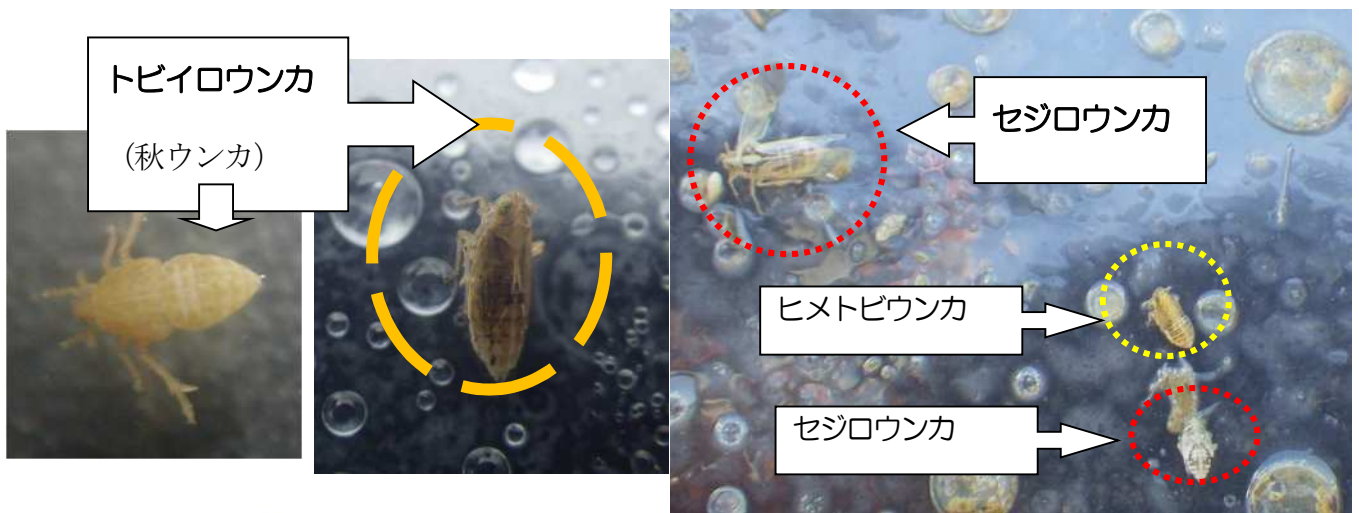
【普通期水稲】

- 圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」や「ごま葉枯病」の温床になるため、すみやかに除去する。
- 葉いもちの発生に注意して観察し、進展型病斑が認められれば早急に臨機防除を実施する。その場合、オリブライト粒剤等を使用する（ただし農薬摘要に留意する）
- 窒素過多は発生を助長するので、適切な肥培管理を行う。
- BLASTAM 情報は別紙参照。BLASTAM（プラスタム）は、いもち病菌の感染に適した条件が表れたかを判定するモデルである。プラスタムで好適条件が現れた場合、約1週間後からいもち病の初発あるいは病斑数が急激に増加することが予測されるので注意する。

BLASTAM情報第4号(葉いもち感染好適条件の出現状況)(2024年7月1日更新)

月	日	佐賀					福岡			長崎	
		唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
6月	1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7日	—	—	—	—	—	●	●	—	1	—
	8日	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	9日	4	●	—	●	—	●	●	●	●	—
	10日	●	●	—	—	—	●	●	●	●	—
	11日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	12日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	13日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	14日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	15日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	16日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	17日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	18日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	19日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	20日	—	●	—	●	●	—	—	2	4	—
	21日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	23日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	24日	●	—	—	—	—	—	●	●	—	—
	25日	—	—	—	●	—	—	—	—	—	—
	26日	●	●	—	●	—	2	●	—	●	●
	27日	●	—	●	●	●	2	—	—	●	●
	28日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	29日	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	30日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

- 1：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満）
 - 2：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上）
 - 3：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15～25℃の範囲外）
 - 4：準好適条件（湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い）
- ：好適条件（湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した）
 —：好適条件の出現なし
 ?：判定不能



ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	○ : 真横
トビイロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	○ : 真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	○ : 斜め後ろ

4. 大豆の管理について

・収量・品質を確保するには、播種時期にあった苗立ちを確保することが最も重要となる。
 平坦部では7月上中旬を播種適期としているので、降雨後、圃場が播種作業のできる状況になり、苗立ちが確保できる天気予報であればすみやかに播種を行う。なお播種に当たって留意点は以下のとおりである。

(1) 梅雨の間の播種対策

- ①トラクタで耕起可能な状態になれば直ちに耕起し播種を行う。
- ②天候が変わりやすい場合は、荒耕起を行わず、不耕起播種や部分浅耕播種技術、逆転ロータリを用いた一工程播種等技術の積極的な活用や、組み作業等による効率的な播種に努める。
- ③一般に晴天が続く場合は、除草や碎土のための荒耕起後に耕起・播種(2工程)する。

※播種後、大雨が予想される場合は播種を行わない。大豆は播種後2日間の酸素要求度が非常に高いため、播種後2日間は降雨により浸水しないことが苗立確保のポイントとなることを留意する。

(2) 梅雨明け後の播種対策

- ①トラクタで耕起できる程度に圃場が乾いたら、耕起の上、直ちに播種する(可能であれば午後から耕起し、夕方播種するようにする。間を空けすぎると土壌が過乾燥となり、発芽率が低下する。)
- ②梅雨明け後は、種子の活力低下と高温障害により、土壌中で種子が腐敗しやすく、発芽率が劣りやすいため、キヒゲン等の種子粉衣を必ず行う。

(3) 共通対策

- ①播種後降雨の恐れがある場合は、覆土は2cm程度に浅くし、播種後の鎮圧は行わない。また降雨後種子が水没しないよう、平播きにせず畦立てを行い、畦溝が排水路につながるよう明渠(作溝)を施工する。
- ②播種後、好天が続くと思われる時の覆土は、碎土率を高め4cm程度に厚めにし、鎮圧を行う。
- ③播種期別の播種量は下記のとおりであるが、碎土率によっては発芽率が劣るので、播種量を多くする等の対策を講じる。

(播種期別、播種量の目安)

播種期 (月/日)	栽植本数 (m ² 当たり)	栽植本数 条間×株間×1株本数	播種量目安 (kg/10a)
7/1～7/5	10本	75cm×25cm×2本	3.2kg
7/6～7/15	13本	75cm×20cm×2本	4.0kg
7/16～7/25	18本	75cm×15cm×2本	5.3kg

別紙 七夕コシヒカリ収穫適期予想表

令和6年7月5日現在

月	日	平均気温		出穂期				
		平年	R6	6/24	6/26	6/28	6/30	7/2
6	24	24.0	24.1	出穂期				
	25	24.2	23.4	23				
	26	24.3	22.1	46	出穂期			
	27	24.4	22.5	68	23			
	28	24.6	24.3	92	47	出穂期		
	29	24.8	24.8	117	72	25		
7	30	24.9	28.2	145	100	53	出穂期	
	1	25.1	25.6	171	125	79	26	
	2	25.2	27.4	198	153	106	53	出穂期
	3	25.4	28.9	227	182	135	82	29
	4	25.5	28.1	255	210	163	110	57
	5	25.7		281	236	189	136	83
	6	25.8		307	261	215	162	109
	7	25.9		333	287	240	187	134
	8	26.1		359	313	267	214	161
	9	26.2		385	340	293	240	187
	10	26.3		411	366	319	266	213
	11	26.5		438	392	346	293	240
	12	26.6		464	419	372	319	266
	13	26.7		491	446	399	346	293
	14	26.8		518	472	426	373	320
	15	26.9		545	499	453	400	347
	16	27.1		572	526	480	427	374
	17	27.2		599	554	507	454	401
	18	27.3		626	581	534	481	428
	19	27.4		654	608	562	509	456
	20	27.5		681	636	589	536	483
	21	27.6		709	663	617	564	511
	22	27.7		737	691	644	591	538
	23	27.7		764	719	672	619	566
	24	27.8		792	747	700	647	594
	25	27.9		820	775	728	675	622
	26	27.9		848	802	756	703	650
	27	28.0		876	830	784	731	678
	28	28.1		904	859	812	759	706
	29	28.1		932	887	840	787	734
	30	28.1		960	915	868	815	762
31	28.2		988	943	896	843	790	
8	1	28.2		1017	971	924	871	818
	2	28.2		1045	999	953	900	847
	3	28.3		1073	1028	981	928	875
	4	28.3		1101	1056	1009	956	903
	5	28.3				1037	984	931
	6	28.3				1066	1013	960
	7	28.3					1041	988
	8	28.2						1016
	9	28.2						
	10	28.2						

4月6日移植→出穂期6月28日頃

◎ コシヒカリ収穫適期の目安

● 積算気温による目安

最低 850℃

~

最高 930℃



<収穫のポイント>

○ 積算表はあくまで目安です。

○ 収穫は、圃場での熟れ具合を確認したうえで、作業日を決定してください。

○ 早期落水すると充実不足による「ヤセ米」や「屑米」、「死米」が発生し、品質低下を招くため、収穫1週間前までは必ず間断灌水を実施し、根の活力維持に努めてください。

○ 麦などの異種穀粒や異物が混入しないよう、収穫作業前には、必ずコンバインや乾燥機の清掃点検を実施してください。

○ 「七夕コシヒカリ」の収穫は、高温条件での作業となり、ヤケ米発生が懸念されるため、一次堆積時間（トラックやコンテナでの堆積時間）はなるべく長くならないよう、ついで作業を進め、収穫された稲は速やかに通風・乾燥してください。



<収穫適期の目安>

・籾水分27~28%（穂軸の先端(穂先)から1~2cmが枯れ、穂元の青籾が5~7粒残っている状態で、籾をツメで押してもつぶれなくなった時。籾水分が25%未満(積算気温で1,000度以上)になると刈遅れによる品質低下が懸念されます)

・収穫時期の気温が高い「七夕コシヒカリ」では、普通期水稲よりも籾水分の低下が早く、刈遅れによる品質低下が懸念されるため、収穫前は圃場での稲の籾水分の推移を注視しながら、収穫適期を判断してください。

・早刈りすると「青未熟粒」や「死米」の発生による品質低下だけでなく収量も低下し、また、遅刈りすると「胴割米」や「茶米」等の発生による品質低下を招きます。高い品質と収量を確保するため、適期収穫に努めてください。